



EGOTAN通信

—江古田小学校 研究だより—

平成29年6月12日
中野区立江古田小学校
研究推進委員会
第 1 号



研究主題 自分の考えをもち 学び合う 算数学習
—集団検討の場を通して—



第1回研究授業報告～5月31日(水)～

第4学年 単元名「角の大きさの表し方を考えよう」

授業者：藤井敦子

講師：元東京都小学校算数教育研究会会長 元練馬区立大泉小学校長

青柳 偕行 先生

【本時のねらい】

三角定規の角を組み合わせてできたいろいろな大きさの角度を見て、その角度の作り方を解釈し、他者に伝えることができる。

【授業のポイント】

角については、2年生で直角、3年生では角の意味と大小比較を学習してきました。4年生では、角の大きさをはかる道具として分度器を知り、角のはかり方やかき方を学習します。本時では、1組の三角定規の角を組み合わせることができる角度について考えました。ここで大切なことは、三角定規の組み合わせ方を工夫すると、いろいろな角度をつくることができるということです。



3人グループで意見を出し合いました。

ホワイトボードに図、式、答えを書いて発表しました。

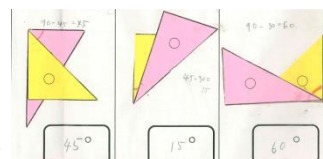
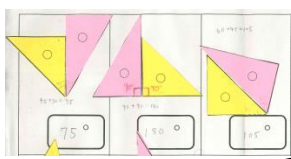
三角定規を組み合わせることができる角度をたくさん探しました。



【児童のノート】

<角を合わせる方法>

<角を重ねる方法>



角を合わせる方法と、重ねる方法があることに気が付きました。

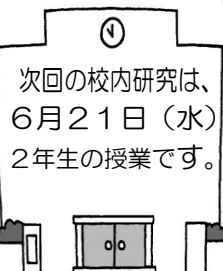
【学習感想から】

- 三角定規のセットでできる角度がたくさんあって、びっくりしました。重ねるやり方も見つかりました。
- 6こ目までは2つの角を組み合わせただけだったけれど、7こ目からは2つの角を重ねてつくるので考えながら楽しみました。

【講師の青柳先生より】

子供たちが意欲的に三角形を組み合わせ、どんな角度ができるか探せていた。1つの頂点から出る2本の辺が作る形を角という。角の大きさは辺の開き具合である。角の大きさの単位(度 $^{\circ}$)について知らせるのが、本単元の学習である。集団検討の場で自分の考えを伝えるには、「まず」「つぎに」「だから」などを使って順序立てて話す、「～だから、～です。」「～です。その訳は～だからです。」などの根拠をもって話すなどの話型をしっかり身に付けさせることが大切である。

様々なご指導をいただきました。今回の研究授業を通して、より一層、授業力向上に努めていきます。



①
次回の校内研究は、
6月21日(水)
2年生の授業です。